

徳川将軍家墓所

徳川将軍家の菩提寺である増上寺には、15 人の徳川将軍のうち 6 人が埋葬されています。この 6 人をはじめとする徳川家の人々の墓は、当初、江戸時代（1603–1867）の建築様式や装飾美術を用いて作られた壮麗な陵墓に収められていました。これらの陵墓はかつて境内の大部分を占有していました。徳川家陵墓は 20 世紀初期に国宝に指定されました。しかし、1945 年の空襲で焼失し、跡地は 10 年以上の間放置されていました。1958 年以降、徳川家の遺骨は掘り起こされ、境内の静かな一角にひっそりと再び埋葬されました。

現存する数少ない建造物のひとつ、六代将軍家宣の廟の一部だったこの精巧な青銅製の門は、墓所の正門です。普段墓所に入る際は左側にある小さな門を使います。宝塔のほとんどは石で造られていますが、中にはより手の込んだ青銅製のものもあります。

墓所の中央には、現在の境内（水色）よりもはるかに広大だったかつての境内を示す地図看板があります。もとの霊廟があった場所はピンク色、現在の墓所は赤色で表されています。看板の裏側には、破壊される前に撮影された壮麗な戦前の霊廟の写真が数枚展示されています。絶大な力を持っていた将軍たちの過去と現在のお墓の対比は非常に印象的です。